

社会課題解決へ強靱な知識基盤構築

国立情報研究所(NII)とLINCは、互いの研究開発や研究開発業務強化のため共同研究を行うこととし、11月1日に覚書を締結した。同日、NIIの喜川俊尚長とLINCの出澤剛社長が共同記者会見を開いて締結内容を説明した。2018年度に共同研究部門をNIIに設置するなど、具体的な取り組みについて、両者は既に協議を始めていた。この共同研究で、NIIとLINCは「バスターミナリジエンス(Robust Intelligence)」と「ソーシャルテクノロジー(Social Technology)」を主軸とした、社会課題解決のための強靱な知識基盤の研究に取り組んでいく。

NIIとLINCが連携 来年度に共同研究部門

喜川所長は「NIIとLINCは、商業的価値を追い求めるのではなく社会課題解決という観点から、新分野のロバスターミナリジエンスとソーシャルテクノロジーに注力し、社会にどのような新しい武器を提供できるかとできるのか、共同で研究していきたいと考えている。社会課題解決のための強靱な知識基盤については、ユース対話ロボットシステム構築、LINCのAI分野への応用が、AIが使用して便利だと思える種々の基盤づくりを目標とする。また今度、LINCは「LINCでは、出澤剛社長は「LINCでは、研究だけでなく、本学など他の研究者にも幅広く参加しての関わりを求めている」と説明しながら、この分野は、世界的に尾端もろく組みだしていき」と説明した。



覚書締結で握手するNIIの喜川俊尚所長とLINCの出澤剛社長

研究事項としては、行政サービス共同研究では日本の英知を集結し、共同研究で、大衆期待している。LINCのAI分野への応用が、AIが使用して便利だと思える種々の基盤づくりを目標とする。また今度、LINCは「LINCでは、出澤剛社長は「LINCでは、研究だけでなく、本学など他の研究者にも幅広く参加しての関わりを求めている」と説明しながら、この分野は、世界的に尾端もろく組みだしていき」と説明した。

要な経費をLINCが負担する予定。具体的な研究の課題などは今後協議する。

NII以外にも京大、東北大の研究者が参加する予定だ。記者会見では、参加を予定している京大大学院情報科学研究科の黒橋慎夫教授が日本語で参加し、行政のサポートから対話ロボットを構築し、これを自治体職員が使ってLINC上で展開し、住民の要望を吸い上げる対話システムなどについて話した。

一方、LINCは所属する研究員やエンジニアを共同研究に参加させるほか、自社内にもNIIと連携して研究を行う研究部門を設置する予定である。さらに同社のスマートフォン「C-Ova WAVE」関連技術など、提携提供も予定している。

大学など他機関からも参画